

Ung Svensk Form 2018

作品概要

01. Matilda Norberg, Earth's Crust – Material rules

(マティルダ・ノルベリ / Earth's Crust – Material rules)

Earth's Crust – Material Rulesとは技術としてのニットの研究を集めたものである。この研究はその限界を押し上げ、挑戦していく中で進められる。始点は地球の外皮のその形態、可変性、経緯、素材、それらの関係性であった。私のニットデザインの仕事において鍵になるのは、新しい素材と技術である。

02. Jennifer Bergkvist, Form & Formality

(ジェニフェル・ベリクヴィスト / Form & Formality)

Form & Formalityは特に書式に焦点を当て、内容と形態の相互作用を探求するものであり、内容に関連した実体、知覚、感情の力と可能性を表現することを目指している。私はアートとデザインの境界を逸脱することに注意しており、伝統的な出版における実験的な本のデザインのより頻繁な活用を促している。

03. Kyung-Jin Cho, Swing jam

(キョンジン・チョ / Swing jam)

Swing jamとは私のソウルでの地震の経験に基づいた音の展示である。音を主な要素として選んだのは地震と同じく振動を持っているからである。陶器の壺の振動との関係性の研究を元に、大きさや厚さ、素材の異なる陶器の壺を作ること、そしてランダムな運動との相互に作用するための方法を探求することを目的としている。ランダムさは欲望と自然の力を象徴している。

04. Anna Sjöberg & Malin Berglund, Cell

(アンナ・シェーベリ & マーリン・ベリルンド / Cell)

Cellとは1つから、なおかつ同じ形から作られる収納システムである。棚を様々な向きに回転させ設置することで、使い手が自身の必要と好みに合わせて構造を作ることができる。セルは平らな壁でも角でも使え、表面の空間利用を最大化する。棚はアルミで作られており、滑らかな手触りの塗料で仕上げられている。

05. Isa Andersson, In/Visible Power

(イーサ・アンデション / In/Visible Power)

In/Visible Powerとの象徴的な出会いは、我々の社会構造が通常構成する障害物と同様に、物質と視覚の出会いが空間的に自然を示す。ガラスのピースは見えない境界、そして制限し差別化する権力構造を論じている。それと同時に、開放や好意、誘惑の恐怖を作るのは何かを問いたです。[361]

06. Victor Alge, Alces Alces

(ヴィクトル・アリエ / Alces Alces)

毎年スウェーデン国内で約80,000頭のヘラジカが殺されている。このうち55%が食用肉とみなされ、45%が捨てられる。Alces Alcesでは、現状屠殺場からの廃棄物と考えられている資源の可能性を探求し、我々が廃棄している資源とは何かを示し、皮革以上の他の可能性を模索してきた。

07. Björn Friberg, Implosion

(ビョーン・フリーボリ / Implosion)

内破は温かいガラスに彫刻されている。簡単なプロセスの後、作業は終了し、そのものの自体の複雑さが反映される。強く繊細な形が、貫通したフレームの中に包まれている。

08. Daniela Juvall, Östberga Type

(ダニエーラ・ユヴァル / Östberga Type)

2年間に渡り、ストックホルム市立美術館はストックホルム郊外のエストベルガに拠点を持ち、日々の暮らしを記録し、歴史の中の記憶や出来事を収集した。このプロジェクトはÖstberga, Östberga展にてその成果が公開された。このプロジェクトをローカルな方法かつ見える形で根付かせるために、展示デザイナーのDaniela Juvallとエストベリア出身の書体デザイナーのヨラン・セーデルストロムは、地元の子供達(Rola, Nima, Mohammed, Riccardo, Klara, Fabian, Masa, Bo, Amin, Ali)と共に書体ワークショップを開催した。

09. Josefine Gennert Jakobsson, Mural Dressing

(ヨセフィーナ・イェンネット = ヤーコブソン / Mural Dressing)

私のMural Dressingコレクションは房を作る技術の研究である。落書きアートの文化にインスピレーションを受け、落書きアーティストが彼らの作品を作るのに入念に準備を行い、素早くスプレーを塗布する方法に着目した。多くの色と異なる素材を用いることで、落書きアート文化の中にある多数の様式や階層を表現した。

10. Aleksander Rothschild, Love Letter

(アレクサンデル・ロットシルド / Love Letter)

私の学部卒業制作のコレクションであるLove Letterは、そのタイトルの通り、異性愛規範の箱の外の人々を必ずしも受け入れようとはしない社会に合わせようとする恒常的な重圧を負う人々に送られる。これはセクシュアリティ、ジェンダーアイデンティティ、構造的な権力システムに関する規範に縛られていないことを祝うコレクションである。

11. Sophie Hardy, Object of Value

(ソフィー・ハーディ / Object of Value)

Siljan, Dalarna地域の企業や工房との共同研究を通して、時間、地域性、団結、そして持続性の価値を見出した。Objects of Valueはモノの収集を通じた対話の価値である。これらの価値の肯定的な意義は、デザインアプローチの正直さと透明性の重要性を主張する、私の工程とデザインの決定を示すことにある。

12. Amanda Borgfors Mészáros, Global Nomad

(アマンダ・ポリフォッシュ = メザロス / Global Nomad)

我々が服を消費する方法を変えよう、改善しようという思いは日々強くなっている。Global Nomadでは見る人々に創造の可能性と、使われていると考えられる素材と衣服の相互関係を見てもらいたい。また様々な技術を通してダイナミックで興味深い印象を与えることができるだろう。

13. Kristin Larsson, The Hybrids

(クリスティン・ラーション / The Hybrids)

The Hybridsはガラスとハンダで作られた鋳物の彫刻で、私のスウェーデン王立美術工芸大学・陶器ガラス科の2017年学部卒業制作の成果である。それは実質性の上でのポスト人文主義の理論に触発された、ガラスと合わせることによるハンダという素材の研究の、実験的な一端であった。

14. Hemmo Honkonen, Audible Furniture

(ヘンモ・ホンコネン / Audible Furniture)

Audible Furnitureは使うと音をだす家具のコレクションである。家具による経験がこのプロジェクトの中心的役割を果たしている。これは対話、驚きそしてユーモアについてのプロジェクトなのである。このプロジェクトは自身の楽器作製の技術と家具、デザインを融合させるアイデアから始まった。

15. Alvina Jakobsson, UnDress

(アルヴィーナ・ヤーコブソン / UnDress)

私は彫刻家である。私は粘土で物を作る。私は私の手のためにある方法を見つけたとも言えるが、どちらかといえば私の手が私のために方法を見つけたと言えるだろう。私の手は模様と量感を一緒に仕上げ上げていく。私は陶器を様々な構造やシステムに包み、それらは波の形に似ているのである。

16. Emma Brålander, Color, illusion and composition

(エンマ・ブローランデル / Color, illusion and composition)

色と構成の力を借りることで、私は平面から三次元、あるいはその逆を作る。空間を歪ませ、見る者に何が本物が分からなくなるような錯覚を与えることを探求している。色を用いることで、平面と三次元の物の境界を消し去りたいのである。私は見る者の好奇心を掻き立てたい。ぜひそばに近づいて空間の広がりを感じてみたい！

17. Julia Westerberg, Gal Pals in Print

(ユーリア・ヴェステルベリ/Gal Pals in Print)

我々の生活を翻訳し反映するチャンネルでは、同性愛者は時に支援する側として格下げされる。私はレズビアンに対する認識の基礎を築くものとしてだけでなく、明確さを与える方法として彼女たちの日常に焦点を当てたい。

18. Per Nadén & Anton Kolbe, Villa Idun-Lee

(ペール・ナデーン& アントン・コルベ/Villa Idun-Lee)

Villa Idun-Lee は実験的な欲望と実用性を組み合わせたプロジェクトである。この住宅プロジェクトはAxel von FriesenとMarika Vaccino Anderssonとのコラボレーションであり、家族の生活との相互作用を元にした長いスケッチの過程の結果である。

19. Martina Skyttberg, Over the Ice

(マティーナ・シットベリ/Over the Ice)

それぞれのレイヤーは異なるストーリーを伝え、提案の痕跡のみを残す。自然の切片のような春の初めに砕ける氷の写真からテキスタイルのイメージを作るためである。染色やスクリーンプリント、刺繍などのテキスタイルの伝統技術に関する実験が私の起点になっている。

20. Emelie Kasholm, Maybeday

(エメリー・カースホルム/Maybeday)

Maybeday は車の中で使われるファースト分娩出産キットである。分娩と出産のケアは危機的状況にあり、社会的優先事項となった時だけうまくいく。もし両親が逼迫する子供の誕生の安全と確実さを感じることを期待するならば、女性が合併症と医療的介入に晒されることは少なくなるだろう。

21. Mariana Silva Varela, Boundless Folk Costume

(マリアーナ=シルヴィア・ヴァレラ/Boundless Folk Costume)

ナショナルリズムが生まれる前、国家の魂が19世紀の民族衣装に具現化されていた頃に戻る。これらの衣装は中東の版画やインドの縫い物に触発され、20世紀までに継続的に現代化された。私は新しく現代的な衣装を作ることで、また保守的で伝統的なやり方でロマンチックな衣装を作ることで、この知覚を学びたい。衣装はシルクとウール、コットンで手織りされ、刺繍されている。

22. Andrej Malinin, It is not as it seems

(アンドレイ・マリニン/It is not as it seems)

私のプロジェクトの基礎は“Walking on water”と“Floating on pink clouds”という2つの表現である。水の上や雲の上を歩いたらどんな風を感じるだろうか？私はボリュームを作るために3Dのモデリングに模様を描いた。そして物理的な形を生み出すためにCNCマシンを用い、その後シリコンを固めて何度も使える型枠を作った。

23. Rebecca Petrini & Joel Fjällström, Mammut

(レベッカ・ペトリニ & ヨエル・フィエルストロム/Mammut)

Mammutは抱きしめられているような感覚を与える。彫刻と家具という平等に扱われた2つの部分、そこでは美しさは、四角い基壇との関係によって作られた有機的な芸術のオブジェクトから逸脱している。これはインテリアの学生とデザインの学生が共同でデザインをした結果である。

24. Linnéa Olmarken, Under the Skin aka. The Pig

(リネーア・オールマルケン/Under the Skin aka. The Pig)

ストックホルムのSlakthusområdet地区にある3つの屠殺場は、学校にコンバージョンされ、そのうち1つは学習センターと図書館に生まれ変わった。卒業制作では、既存の建築、及び土地の分割構造と関係を持ちたかった。同時に敷地の物語も伝えながら、何か新しいことをしたいと考えたのである。

25. Anna Pers Bräcke, Fat fat

(アンナ・ペーシュ=ブレッケ/Fat fat)

この本は私自身が太っている経験を通して考えられ、太った身体向けられた軽蔑の反応そのものとして作られた。社会にはバリエーションが必要だし、我々は太った身体を、ありのまま、見えるままに讃えるべきだと考えている。絵はグワッシュ画法で描かれており、私自身の身体を参照している。

26. Agga Anne Mette Stage, BodySoapNameGenerator.com

(アグガ=アンネ=メッテ=スターゲ/BodySoapNameGenerator.com)

BodySoapNameGenerator.comは、2016年から2017年にかけて北欧のスーパーマーケットで販売された200を超えるボディソープのラベルを元に、我々が会った大きく清潔さを表すためのキラキラした表記を調査している。このプロジェクトは、見る者に男性とは対照的に女性に対して石鹸を売るのに用いられる典型的な言葉の間の、コントラストのような側面を見せる。

27. Benedetta Crippa, World of Desire

(ベネデッタ・クリッパ/World of Desire)

World of Desireは芸術家の手作りの本の形に見られる多元性を讃えている。装飾を方法として用い、現代の視覚的規範に挑戦するために、隠喩的で曖昧で霊的な空間を与えている。この本はグラフィックデザインの間、個人と全体の間、瞑想と物理的なものの間を出入りしている。何がグラフィックデザインか、何がなりうるかを証明し、我々が今日それを表現する方法を示す。

28. Ida Pettersson, Astral Grid

(イーダ・ペッテション/Astral Grid)

Astral Gridは2つの画像レイヤーがより合わせられた織物のグリッドを表現している。模様は二次元だが、四角形を抜けて下にあるレイヤーが見える。手前にある模様は丸い形をしており、これらのシンボルは、星と惑星を彷彿とさせる力の球を示している。模様は私の想像力から生まれたたくさんのレイヤーでありその配置図なのである。

29. Karin Matz & Helen Runting, Secretary, Welfare State

(カーリン・マッツ& ヘレーン・ルンティング/Secretary, Welfare State)

スウェーデンの福祉は、病院、交通施設、会社、酒屋、学校、図書館、美術館と数千kmに渡って建築を持っている。退屈、孤独、緊張、あるいは喜び…我々は我々に指示を出し、懲罰を与え、何を考えているかを問い、日々の基本的なことへの支援を与えるための待合室や玄関、受付で民主主義に出会う。